

— 総括表 —	
◆ 事業計画	
<input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性 西区の中でも高齢化率が高い地域。ひとり暮らしの高齢者人口も多い。山坂や階段が多い地域であり外出できない高齢者が多い。身近な場所での居場所づくりや生きがいづくりが課題となっている。地域活動の支え手が減少しているため、新たな協力者が必要となっている。	
<input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組	
新規	継続
— 具体的な取組内容 —	
■	<input type="checkbox"/> 様々な関係機関や団体機関と協力し、地域のニーズに合った取り組みを行います。
■	<input type="checkbox"/> 趣味や特技を活かして、地域や福祉とつながる機会を創出することで、地域活動の協力者を増やします。
□	<input checked="" type="checkbox"/> 権利擁護、介護予防、介護についての情報を発信していきます。
□	<input checked="" type="checkbox"/> コロナ禍での体力の低下から、より身近な地域で住民の皆様が介護予防を実践できるよう地域に出向いて講座を実施します。
■	<input type="checkbox"/> 横浜市における認知症の取り組み(チームオレンジ)に参画して、認知症理解を啓発していきます。
<input type="checkbox"/> 振り返り ・障害施設からの要望を受けボランティア団体に椅子カバーを作成依頼し、更にデザイン専門学校と連携するなど、地域と福祉の連携が広がっている。 ・ケアプラザの広報誌や民生委員勉強会や各地域の会において、権利擁護・介護予防・介護などの様々な情報を発信できた。 ・各地域のシニアクラブに出向き、介護予防講座を開催している。新たな元気づくりステーションも立ち上がり、地域で介護予防の意識が高まっている。 ・今年度は、チームオレンジに参画して、認知症サポーター養成講座で地域のかかりつけ医に講義してもらったり、養成講座を商店街の居場所や小学校で開催したり、1月に若年性認知症について講演会を開催したりと、認知症の理解を地域に広めることができています。 ・地域は、担い手が4年前と同じか少なくなっているという状況が見られ、新たな担い手づくりや地域の事業を継続していくための検討など、地域と共に考え、課題解決に向けた検討・行動・地域支援が必要である。	
<input type="checkbox"/> 区からのコメント (全事業共通事業) ○地域アセスメントを元に(相談傾向などの分析を踏まえ)、地域住民に向けた介護予防講座・権利擁護講座・認知症サポーター養成講座の実施、集合住宅での見守り活動への支援など、地域の困りごとの解決に向けて、各職種がそれぞれの視点をもって6職種で連携を図りながら、課題解決や新たな事業展開に取り組むことができています。地域アセスメントにおいては、引き続き職種・組織を越えた連携により、個別課題を地域課題として捉える機会として継続し、住民主体の地域づくりにつなげられることを期待します。 ○また、自治会等の支援を通じて、さまざまな主体と協働によるネットワーク形成を図っています。コロナ禍を経た住民主体の地域活動の再開や始動においては、住民の歩幅に合わせた丁寧な支援を継続しています。	
(地域包括支援センター事業) ○認知症、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント等様々な分野で、地区診断に基づいたエリアのニーズに合わせた講座や相談会を開催いただきました。特に認知症の取組としては、チームオレンジにも参画され、区内でも先進的な取組を行っていただきました。 ○また、元気づくりステーションの立ち上げ支援やサロンの充実等、常に地域に必要な居場所の検討・支援をいただきました。包括内での連携を深められ、それぞれの事業が有機的につながっていることは素晴らしいと考えます。今後も、地域住民、関係機関との連携・協働による見守りやつながりづくり等、地域づくりが一層推進していくことを期待しています。	